

第5回大野市総合計画審議会

日時：令和2年8月12日(水) 午後3時～午後4時20分

場所：結とぴあ305・306

出席者 大野市総合計画審議会委員 23名（欠席者2名）
政策局長、総合政策課長、総合政策課員

1 市長あいさつ

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、前回は書面開催とさせていただいたが、今回は直接お会いして会議を開催できたことにありがたいと感じている。
- ・6月の大野市議会にて基本構想について議決を受けた。
- ・将来像「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」の実現に向け、市一丸となっていきたい。
- ・基本構想の内容は新型コロナウイルスの影響の有無にかかわらず大野市が目指していく大切なものには変わりはない。
- ・社会の変化がある中で変わらないもの、変えていくものについて、皆さんからの忌憚のない意見をもとに、今後の5年間の前期基本計画の議論を進めていきたい。
- ・幹事会の方々にはこれまでも検討を進めていただいていることに感謝申し上げるとともに、審議会にて議論を深めていただきたい。

2 報告事項

- (1) 委員の交代の報告と出欠について

3 議事

- (1) 第六次大野市総合計画の策定状況について

事務局より資料1に基づき説明。

質疑等

会 長：ここ半年間、コロナで社会が変わった。それに合った内容であることが前提ではないかと考えている。

委 員：基本施策23文化芸術のうち「文化芸術の継承」について、「継承」はもちろん大切だが、現在の活動の振興も必要。「振興」「推進」を加えてほしい。

施策の内容「若年層が文化芸術に触れる機会の創出」は「市民が気軽に文化芸術に触れることのできる機会の創出」と重複している。「若年層が～」は「市民が～」に含まれると考え、「若年層が～」を例えば「豊かな文化活動の創造」「薫り高い文化活動の創造」に替えてはどうか。

委員：基本構想に掲載された将来像実現のための基本目標のうち、基本施策の掲載順番はこのままでいくのか。前回以前の委員さんからの意見にも、人口減少を大きな問題として捉えており、こどもに対することを重視してほしいというものがあった。

事務局：基本構想に掲載されている順番はそのままと考えている。第五次総合計画は市役所の組織を意識し、担当部署を明確にしていた。第六次総合計画は横断的なつくりとなっており、例えば「こども」「健幸福祉」については重複するものがある。持続可能性を意識して「こども」⇒「健康」⇒「働くこと」という順番に並べた。市議会の議決を受けた基本構想に掲載されている順番で、前期基本計画についても記載していきたい。

委員：スポーツが「健幸福祉」分野で良いのか疑問。スポーツを楽しむといったものは「健幸福祉」に含まれると思うが、競技力の向上は分野から外れるのではないか。また、地域のスポーツ協会は「地域づくり」、子どもへの指導は「こども」にも関係する。

スポーツ協会の立ち位置が微妙になっている。指導者の育成とみんなで楽しむスポーツの普及になりつつあるが、はっきりしない。

事務局：こども、地域づくりの観点でも幹事会で話しあっていきたい。

委員：資料1-1の商工業の記載内容のうち、特に工業の内容が薄い。例えば企業誘致について具体的にどういう分野の企業を誘致したいか明確でないのが残念。

会長：コロナの影響で、「ものづくり」がもっと見直されると思う。観光は一夜にして吹っ飛んでしまうということを経験した。ウィズコロナ、アフターコロナを意識した政策として、「工業力の強化」についても大事な視点。

委員：基本施策14環境保全関連。旧市街地には五つの背割り排水がある。現状はただのどぶ川というように感じる。例えば背割り排水をきれいにして、一本でもよいので鯉を泳がせるなど観光にも活用してほしい。

委員：基本施策12観光関連。大野市には貴重な文化資源がたくさんあるが、橋本家や宝慶寺などが目立っていない。観光資源としてつながってこないといけない。

林業について、伐採に力を入れているが、本来は保育が大事。以前は苗畑があったが、今はない。これを大事にすることで大野市らしい林業になると思う。

委員：基本施策18の公共交通について、バス運転手の人材確保の支援はどういった手法でできるか疑問。

事務局：いただいたご意見は幹事会にて検討していきたい。

委員：観光について、第五次総合計画では人を呼び込むことに力を入れてきたが、現在の第六次総合計画の案では抽象的になっている。まちなか観光や歴史文化に重点を置いた観光の推進といった具体的な施策があると良い。

また、「市民を巻き込んだ取組みの推進」といった表現も抽象的でイメージができない。

中部縦貫自動車道、道の駅「越前おおの 荒島の郷」の観光に対する位置付けを記載する必要があるのでは。

事務局：「市民を巻き込んだ取組みの推進」の内容は、市民の企画によるイベントや体験活動をイメージしている。表現方法は検討したい。道の駅については、新たな道の駅と道の駅九頭竜をつなげて活用していくことも大事だと考えている。こちらについても検討したい。

会長：県の道路整備方針が今年度中に作る予定をしているので、合わせて検討してもらいたい。

既存の産業が一步前に出て来なければいけない時代になった。人を呼んでくるだけではなく、攻めの展開、アグレッシブな取組みを期待したい。

(2) 第六次大野市総合計画の構成(案)について

(3) 第六次大野市総合計画 前期基本計画の構成(案)について

事務局より、資料2、3に基づき説明。

質疑等

委員：個別計画が総合計画のどの分野と関係するか分かるとよい。市民が具体的な事業計画を確認しやすくなると思う。

事務局：個別計画の一覧を掲載するだけでなく、前期基本計画では、施策ごとに見開きで施策の内容の説明をしたいと考えている。その説明ページに関連する個別計画を記載することとしたい。

会長：構成については総合戦略との整合性が重要だと考えている。

委員：構成としては分かりやすいと感じた。

幹事会でこども分野に参加していたが、基本施策として「保育」と「子育て」の違いが分かりにくい。「妊娠・出産期」「乳幼児期」「学齢期」「成年期」といった分け方が分かりやすいのではという意見が出ていた。

委員：道路整備について、幹線道路は具体的な路線名が記載されているが、市民にとって大事なものは生活道路。

また、災害対応として、治山治水について掘り下げて検討してもらいたい。災害に強い主要道路の整備も必要。

委員：水に関して、水のまちとして売り出しているわりに、見える水がないかと思う。どの分野になるかは分からないが、水が表に出るようにしてはどうか。

委員：全国的に災害が起きている。地域住民との連携が必要と改めて感じた。

委員：雪国として雪対策が必要。若者は雪が嫌いで外に出ていく。総合計画の中でどのような対策をするか取り上げることが重要だと考える。雪の積もらない屋根の形状を考え、落ちた雪を助け合って片付けるといったことで

結が生まれる。「大野に住める」まちづくりが必要だと思う。

J Rの利用促進について、いかにして乗ってもらうか。市自らが手法を考えるべき。例えば区長会で福井へ会議に行く場合、J Rを利用するという取り組みを続ければ市民にも活動が広がるのではないか。

委員：「公共交通の維持」という記載が後ろ向きなイメージになってしまう。「活用」と前向きにしてもらった方がよい。

コンパクトプラスネットワークという視点で、公共交通は非常に重要な軸。土地利用との連動の視点が抜けている。公共交通を使いに行くというのではなく、施設利用との連動といったことを記載してもよいのでは。公共交通を使いやすい環境を整備するということを総合計画の中で謳っていくことが必要。

会長：今後の幹事会で本日出た内容について検討してもらいたい。

会長：本日の3つ議題について、詳細は幹事会でさらに議論していただくこととし、基本路線としてこのまま進めていくこととしてよろしいか。

⇒承認。

(4) その他

事務局：今後、具体的な内容を幹事会で議論するとともに市役所内でも検討していきたい。次回の審議会は10月中旬を予定している。

会長：本日の会議の始まる前に委員と話をしていたが、このような計画を作るのはいいが実際誰がやるのかという問題がいつもある。画に描いた餅に終わってしまうことが多い。今まで通りのやり方ではうまく回っていない時代になっている。

せっかく作った計画なら、実行に移すために市民に啓発することが必要。市も啓発していくことが必要だが、委員の皆さんも市民一人一人にお声がけし、関わりの連鎖を作っていくことが非常に重要になる。皆様におかれてはご承知のことと思うが、確認の意味で敢えてお話しさせていただく。

本日は良い意見をたくさんいただいたが、思いついたことがあれば事務局にご連絡いただければと思う。

4 閉会 副会長あいさつ

【会議資料】

- ・資料1：第六次大野市総合計画の策定状況について
- ・資料1-1：基本施策一覧
- ・資料1-2：基本施策一覧（施策の内容入り資料）
- ・資料2：第六次大野市総合計画の構成（案）
- ・資料3：第六次大野市総合計画 前期基本計画の構成（案）